参考３

第５回福山駅前広場協議会　議事録（抜粋）
日時：２０２３年（令和５年）９月２５日（月）１６時～１８時
場所：福山市役所３階大会議室

＜委員の意見＞
●渡邉一成
福山駅前広場整備基本方針の１５頁をご覧いただきたい。議論をするうえで大事なことが示されている。福山駅は東西に４００ｍある長い駅。駅前広場が議論の対象になっているが，駅前広場だけを議論しては行き詰ると思う。東西に長い駅の特性や北口広場や周辺エリアとの連携などをトータルで考えないといけない。大事なことは，**駅前広場の機能を広場外に分散させることができるのではないかという共通認識を持つ**こと。駅前広場には交通結節機能も必要だが，是が非でも，それは駅前広場にないといけないのかと考えると，別の方法もあるのではないかと思う。そうした考え方を持って，交通の分科会ではこれまで議論を行ってきた。そうした議論の中でＤ案という案が検討されている。
事務局から福山城は天守閣だけでないという説明があった。確かに広い城郭が形成されている。**駅前広場は城郭の一部であり，城郭をベースにして現在の市街地が形成されてきたということが共通理解になればいい**。シンボリックな駅前広場にするためにも，遺構が大事なのではないかと考えている。

●西村浩
遺構を残すことが大事だと考えている。福山ならではの駅前をつくるということは個性をつくるということ。人口減少の時代に地方都市が選ばれていくためには必要なこと。個性がなければ，都市の大きさや利便性などだけで選ばれるような，競争の舞台に乗らないといけなくなる。**遺構の復元を念頭に，駅が城の中にあることを徹底的に追求してつくることが，福山が選ばれる理由の一つになっていく**だろう。Ｃ案とＤ案という話がある中で，**Ｄ案をめざす方が福山ならではの駅前をつくることにつながる**と思う。
Ｄ案の場合，バスを駅前広場外に移さないといけない。以前から伏見町や北口広場にバスターミナルをつくれないかという議論があるが，やはり，**北口広場にもっていくのが一番進めやすいと思う。北口広場は市とJRしか関係者がいないので伏見町よりも合意形成を図りやすいだろう。**バスは北に行くことになるが，北口広場なら直接，駅と結節でき，雨にも濡れない。タクシーも一緒に結節すれば良いと思うし，駐車場も併設できれば，自家用車の結節も向上するだろう。それと同時にJRの商業とも直結していく。非常に利便性が高まるだろう。そうすれば，バスターミナルがウォーカブルなまちの起点となっていくと思う。北口広場にバスターミナルを建設する場合，北側の景観を一緒につくれることもメリットになるだろう。バスターミナルから福山城が良く見えるテラスやレストランなども一緒に作れると思っている。商業振興や景観，交通の問題を同時に解決する絶好のチャンスだと思う。バ

ス事業者が心配しているように，**南側から来たバス利用者が南側で早く降りたいという要望もあるだろうから，駅の南側，例えば，伏見町のあたりに降車場を配置できると良いだろう。**駅にバスターミナルが直結する事例は最近増えてきている。商業振興や交通結節，景観という視点で，色々な先進地を視察する機会をもって，みなさんが納得しながら進めることが出来れば良いと思っている。

●福山市身体障害者団体連合会

バスについては，駅を出てすぐに分かる場所にバス乗場がないと市外から訪れた人にとって難しいだろう。

遺構については，事務局から説明があったように，史実に基づいた活用をしてもらいたいと考えている。**堀に水を張ることが危険という説明があったと思うが，水を張らなくてもよい，別の方法がないか**とは思った。

歩者分離の問題については，視覚障がい者と車いすの利用者が困っている状況。本通りのような工夫をすれば，点字ブロックを設置しなくても自転車と歩行者の分離は可能だと思う。難点は色。よく緑色で色分けされているが，視覚障がい者はほとんど識別できない。自転車の利用者も守らない状況。ベテランになれば，白杖で探れば感触である程度分かるようになるが，少し工夫をしてもらいたいと思う。

駅前の運営については，商店街の営業をやっている人たちなどを交えて，協議会などをつくったらどうかという案なのか分からないが，話し合いをしながら進めてもらえればいいと思う。

●建設局参事

遺構について，先ほど，必ずしも水を張らなくても，お堀のイメージが感じられるようにできないかというご意見をいただいたと思う。**８月３０日に開催した遺構の分科会では，水を張ると管理や安全が問題になるというご意見をいただいた。ただし，外堀と内堀のレベル差など，城郭の特徴を感じられるようにデザインすると良いというご意見もいただいた**。先ほどのご意見も貴重なご意見として参考にしていきたい。

歩車分離については，歩行者や自転車の安全性の確保は必要になると考えている。色分けでは難しいというご意見だったと思う。今後の参考にしていきたい。

運営については，去年１１月に２週間ほど駅前広場で実証実験を行った。休憩や子どもの遊び場，物販スペースとして使われる想定をしていたが，実際に広場が使われだすと，音楽の演奏やヨガなど色々な使い方をしたいという要望が出てきた。行政が使い方を決めるような発想は古いと感じている。運営において，大事なことはルールを決めることだろう。例えば，ヨガのとなりで大きな音で演奏が行われたりすることは良くないだろう。駅前広場を整備したら終わりではなく，どのように運営していくかは整備後も考えていかないといけないことだと考えている。

●広島県東部観光推進協議会

誘客という観点で発言をさせていただく。**遺構の活用については，県外の方と話をする機会が多いが，ほとんどの方が駅からお城が見えるところだと言われる。地元の人は気づいていないかもしれないが，非常に大きなポテンシャルがあると思っている。そういった意味では，城の中に駅があるという発想はとても良い**と思う。全国色々な広場がある中で，福山ならではの価値を創出できると思う。福山城の中に天守閣があり，駅があり，駅前広場や北口広場があるというコンセプトの中で，それぞれのエリアで様々なアクティビティが散りばめられているという状況になれば，県外の人も呼び込むことができると思う。観光面でいうと，インバウンドやいわゆるＺ世代の方々というのは，単に観光地に行って，見学して，食事をして帰るだけではなく，それぞれの土地の現在に至るストーリーに価値を感じられる方が多い。その価値に共感することによって，その土地に行ってみたい，物を購買してみたいというような動機につながる傾向があると言われている。お城のあった時代から引き継がれている文化や伝統工芸，食べ物など，色々あると思うが，ストーリーを整理して，整備に取り入れておくと，より魅力的な空間になると思う。

●三谷繭子

本日から参加させていただくことになった。簡単に自己紹介をさせていただく。福山生まれ，福山育ち。その後，まちづくりや都市計画，都市デザインという分野で，全国の地域を支援することを仕事としてきた。この度，Ｕターンで福山に帰ってきて，福山の顔となる福山駅前広場を良くしていくことに携われることを嬉しく思っている。

遺構については，事前に検討内容を拝見した。石垣を中心にランドスケープをつくっていくことやゆっくり作っていくこと，子ども達が関わっていくことなど，素敵なキーワードが出ていると感じた。私が学生のときに，駅前の再整備に伴って，遺構の議論が行われていた。周りから見ていると，遺構を歴史的な景観として，はっきりと残すか残さないかという議論に見えた。今後は，若い世代も遺構のことをポジティブに捉えられる議論やデザインにできると良いと思う。**駅前広場だけでなく，駅周辺が城の中にあるという捉え方をしながら，都市の中でさり気なく遺構を見ることができる状況を整えることができれば，人々がなじみやすく，使いやすい広場になっていくのではないか**と感じた。私は市外から訪れた人とまち歩きをする際に，古地図を見ながら，歴史的な遺構などを案内したりすることがある。遺構を見つける面白さは，まちの楽しみ方の一つになると思う。

自転車の動線について。私は駅周辺に住んでいて，３歳になる子どもを育てている。ちょろちょろと動き回る子どもを駅前に連れてくる場合，駅前広場は一番早く通り過ぎたい場所になってしまっている。自転車もそうだが，色々な交錯がある場所なので，子どもが安心して歩ける場所ではない。子どもが疲れたときに休む場所もない。**子どもだけでなく，大人にとっても自転車との交錯は危険だと思う。自転車の動線をはっきりと分離して，歩行者が**

安全に通行できるような状態になると良いと思う。サイクリングロードのこともあるだろうが，日常交通として自転車をどう位置付けるか，サイクリングロードのことにも紐づいていく，今後の議論になると思う。

広場の運営について。大事なことは広場の理念をどのように通していくか。一貫した理念が運営や設計に反映されるべきだろう。今後，事業者選定において，運営者のみを決めていくのが良いのか，設計者も併せて決めていくのが良いのか。今後のスキームに関わってくる部分になる。ちょっとした休憩や居心地良く過ごすことができるような「目的なく使うデザイン」やイベントなどアクティブに使うことができるような「目的をつくるためのデザイン」を上手に作っていくことが必要だと思う。そのためには，運営者と設計者がチームになるような体制づくりが求められると思う。

●福山市商店街振興組合連合会

Ｄ案を前提に話をさせていただく。福山駅前広場の現状は交通結節機能が高くなっていると思う。今後，都市の特徴をアピールしていくためには，全面的な広場としながら，福山城の遺構を上手に融和させていくと良いだろう。先日，分科会の意見を聴かせていただいたが，遺構については正にその通りだと感じている。時間をかけながら，史実に基づいた復元を行い，可能な限り遺構を生かしていくという方向性だった。遺構をあまり出し過ぎると広場の機能が制約を受けてしまうと思うので，分科会で示された方向性が良いと思う。

Ｄ案の場合，バスをどこに移すのかということになる。それがないと前には進まない。個人的には北側が良いと思う。北側では堀端公園や丸之内公園も可能性があるのではないか。南側では伏見町やさんすての南側の可能性があるかもしれないが，景観的には北側が良いと思う。Ｄ案を選択する場合，相当の投資が必要となるだろう。地下送迎場と地下駐車場を接続する検討も進んでいると思うが，地下を接続することができるのであれば，是非接続してもらいたい。当初，地下送迎場は２，０００台程度／日の利用を見込んでいたが，実際は８００台程度／日の利用しかないと思う。送迎場の機能を拡大して使いやすくすることも考えてもらいたい。地下にショッピングセンターなどを入れれば魅力が高まるかもしれないが，現状の都市のレベルからするとテナントの募集は難しいように感じる。であるならば，地下駐車場の機能を拡大することや地下に駐輪場を設置することを考えてはどうか。駅の東西に駐輪場はあるものの，収容台数や駅との距離のことを考えると，地下を利用することは有効ではないかと思う。

車両の動線については，自家用車も自転車も駅前広場に入れない方が良いだろう。そうしないと，広場としての安全性が向上しない。可能であるなら，伏見町や三之丸町にも自転車を入れない方が望ましいと考えている。今後，集客施設をつくるときは，必ず駐輪場を設置するようにしていただきたい。路上駐輪が多いので，施設側が責任を持つべきだろう。

運営について。例えば，富山のグランドプラザは公設民営で行われている。以前，視察した際には，１年通して１００％の稼働だと説明されていた。素晴らしい運営をされていると

思う。運営やイベントのことを考えると，運営事業者は公募などで決めていった方がいいと思う。

お城の中に駅舎があるという話は以前から思っていたこと。可能であれば，ＪＲの駅舎をお城の景観にマッチするようなデザインに変えていただきたい。

駅周辺の中央をウォーカブルな空間に変えると同時に，中央から東西南北に人が動いていく仕掛けを考えていかないといけない。北側にはお城があり，西側には iti-SETOUCHI や三の丸公園，南側には中央公園のパークＰＦＩ，東側には伏見町やとおり町ストリートガーデンがある。そこを結んでいくためには道路が機能しなければいけないと思う。

過去に福山青年会議所が「ふくやまハートピア２１」という構想を発表した。福山の特徴の一つである外堀と福山港をつなぐ入川を天下橋や木綿橋を含めて復元するという構想だった。福山は城下町だった場所。なんとか入川を復元できれば，築切のところから市立大学までがつながる，更に手城川からも融合していけるのではないかと思っている。

●三之丸町町内会

「ふくやまハートピア２１」は自分が副理事長の時に作成したもの。瀬戸内の中枢都市福山がコンセプトになっている。未来においても，この都市はそうしたポテンシャルを秘めていると思っている。

先日，分科会に参加した。１５年前に本格的な二重櫓の復元をテーマに署名を集めた。約１２万人の署名が集まった。築城４００年の際，本格的な天守閣を造ってもらいたいと思っていたが，これについては文化庁の許可をもらって鉄板張りが実現できた。これは価値があると思っている。それ以外にも，一番櫓や西側の石垣も再建しようと思えばできたと思うが再建されず残念だった。**駅前広場の二重櫓は史実に基づいたものを造ってもらいたい**。先日の分科会では，C 案の場合，道路計画を踏まえると二重櫓の復元が難しいという話だったが，重なるわけではないので，技術的には避けることはできると思う。分科会の議事録を拝見すると，この度の再編に伴った二重櫓の復元については，史実に基づく根拠を積み上げ，みなさんの意見を聴きながら時間をかけて復元するという方向性で整理されようとしている。

現在の駅前広場を整備した際に，地下送迎場の進入口にあった石垣は別の場所で保管されていると思うが，現在，その石垣がきちんと管理されているのかを確認してもらいたい。

●福山市バス交通利用促進協議会

バス事業者の観点で発言をさせていただく。福山城の遺構については，生かしていくべきだと思っているので，後世に残るものを造って頂きたい。

D 案をめざすにあたって，北口広場へバスターミナルを配置する意見が出ているが，バス利用者のことも考えていかないといけない。**バス利用者は健常者ばかりではない。交通弱者も多い。駅とバスの結節のことだけを考えるのではなく，買い物などの目的地のことも考**

えないといけない。現状では南側に店舗が集まっている。グリスロなどのモビリティのことも含めて動線を考えた方がいい。北口に配置する場合，南側に降車場を配置することも考えていかないといけない。バス利用者が使えないものになってはいけないと思う。

●広島県バス協会

駅前を活性化させるために広場をしっかり活用すると同時に交通結節点としての機能もより高め，エリアの魅力を高めていくことはまったくその通りだと思っている。先ほどの意見にもあったように，交通弱者をいかに守るかが大事だと思っている。現在，政府は子育ての施策を推進すると言っている。公共交通がないと，学生は学校に行けない，高齢者は買い物や病院に行けないということになってしまう。カーボンニュートラルやグリーントランスフォーメーションという観点からも公共交通の重要性が高まっていくのは明らか。我々は交通結節点機能を低下させてはいけないと考えている。今後どうすればいいか。バスターミナルが一番良いと思っている。北口に造ることは安全性や利便性からどうなのかと思っている。できれば，伏見町の再開発と併せて，造ってもらった方が便利だと思っている。現状，バスやタクシーは駅前広場をかなり広く使わせていただいている。相当の資産価値がある場所だと思っている。これが移転するわけなので，それに匹敵するくらいの投資をしてもらえると勝手に思っている。

明治３６年にバスが京都で走り出して，今年で１２０年。バス事業はコロナ禍により，戦後，最大の危機を迎えた。人流抑制でお客様がいない中，エッセンシャルワーカーと言われながら，バスを走らせた。この３年間の赤字は非常に大きく，簡単には取り戻せない。更に人手不足や燃料高騰が重なり，非常に厳しい経営状況に陥っている。バスの最大の使命は安全。DX などに積極的に取り組むと同時に，生産性を上げることで，いかに事業を継続させるかを考えている。どうぞ皆様にバスを利用していただき，公共交通が存続できるようにご協力をお願いしたい。

●株式会社築切家守舎

分科会にも参加させていただいた。やはり福山ならではの駅前広場を造るためには，全面広場が良いと思っている。議論を聴いていると，そういう方向に進んでいることは大変良いことだと思っている。ちょうど，この会議の前に伏見町の役員会があった。伏見町の西側の歩道のところにお店を出して道路を使おうとしているが，なかなか上手くいっていない。駅前広場が公園のようになれば，活性化するのにという話が出ていた。協議会の検討状況を聞かれたので，全面広場化のことを伝えたら，それは良いことだという話になっていた。恐らく，全面広場化ということになれば，伏見町も協力しながら，まちづくりが出来ると思う。もう一つは船町商店街。私はそこの役員も務めている。そこでも駅前広場がどうなるのかという話が出ていた。検討状況を伝えると，全面広場化はとても良いですねという話になっていた。駅前に人が溜まって，そこから人が周辺へと流れていく。商店街の活性化にもつなが

るので，全面広場になれば嬉しいという意見が出ていた。課題は色々あるだろうが，駅前が全面広場になり，お城の中の広場みたいな雰囲気になって人が集う場所になる。それが活性化につながると思う。

バスターミナルという話が出ている。分科会でも三宅会長から伏見町にバスターミナルを造ってもらいたいという意見が出た。課題も多いが，伏見町として，都市再生推進法人としても協力していきたい。伏見町はまちづくりへの意欲がある。若いプレーヤーも出てきている。そういう方たちと一緒に全面広場にするためにはどうすればいいかを考えていきたい。

●伏見町町内会

伏見町の不動産価値は低下している。団体のバスで多くの人を呼び込んでいってもらいたい。是非バスターミナルを検討してもらいたい。

●福山商工会議所

駅前が素敵な広場になれば新しい魅力が生まれる。市民に愛されるものになっていく可能性があり，そこに向かって皆で知恵を出していければいいと思う。

遺構について。文化財との共存は言うのは簡単だが，行うのは非常に難しい。お城は攻められにくくするために，曲がり角や段差などの構造上の特徴があるもの。過去に三浦先生を中心に作成された福山城の再現 VR はかなり正確に作成されていた。下手に復元を行うと，バリアフリーから少し遠のいていく場合もある。もし，**復元するのであれば史実に基づいた忠実な復元が良いだろう。そうでないのであれば，史実に基づいて再現 VR を作成し，駅前広場で大きなスケールで投影すれば歩いて楽しめるような瞬間が生まれる**と思う。

●広島県タクシー協会東部支部

城と一体型という話はとても面白いと思う。**人が集まるまちづくりをどう作り上げていくかをしていかない限り，福山駅で降りていただけないという状況になっている**と思う。現在，色々な協議会に参加しているが，同じような課題について議論している印象。行政内部でも連携をしてもらいたい。課題解決にはデジタルという手段が必要になってくると思う。歴史をデジタル化して見せる方法もあるだろうし，今あるものを上手に生かす方法もあるだろう。まずは，ストレス無く過ごせるような駅前のまちづくりを考えていくことが大事。その上で交通の結節を考えていく。最近では，**グリスロ以外にもキックボードなどのモビリティが増えてきている。ゾーン６という考え方も出てきた。電動車いす位のスピードの車両。そういう車両に対して，上手にバスやタクシーを結節させて乗り継いでもらうということを考えていくと面白いと思う。**北口や南口，商店街など，各エリアで担当部署が違うとバラバラのまちづくりになってしまう。これを一体化しつつ，デジタルで解決していかないと上手くいかないだろう。そこには自動運転も関わってくるだろう。我々，運輸業に関わる者は乗務

員や規制などの様々な問題に対処しながら，人が集まる環境をつくりつつ，バスやタクシーを利用して頂けるような新たな交通環境を作っていかないといけない。そのためには，駅前の開発と共存をしながら，歴史と未来をつなげていくようなまちづくりに協力していきたいと考えている。

●西村浩

お話を聴いていると**一番のテーマは結節だと感じた。交通の結節，人と人の結節，障がいを持った人も結節できるような環境をまちの中にどのようにつくっていくか**ということ。バス事業者が仰る通り，交通結節を強化することは一番のテーマだと思う。**仮に北口広場にターミナルができれば，バリアフリーの観点でも雨に濡れずにスムーズに乗れる，そして，近い距離でバスやタクシーに乗れるなど乗り換えの利便性が高まる。更に商業と結節させれば，乗り換えの待ち時間にコーヒーを飲みながら待つこともできるだろう。南側から北口に向かうとバスの走行距離が長くなるという話があるが，利用者にとっては快適性や利便性が高まるものだと考えている。南側に降車場を配置すれば交通結節も確保できる**。

遺構について，城の特徴である段差の話が出ているが，少しずつ下がるイメージだろう。緩やかなスロープをつくりながら，ほとんどフラットな環境を整えることで，遺構の活用と広場の利活用が共存できると思う。そこをめざすべきだろう。

そして，その**広場をどのように運営するか。一番のポイントは結節を促すために境界を無くすこと**。伏見町の道路上の屋台が使われていないという話があった。広場ができて境界が無くなると，商店街と一体となって使える。旧キャスパ跡地の開発も同じ。**民地と広場の境界を越えて活用できるとか。JR と市の境界を越えて，JR と協力しながら一体的に活用するとか。一体運営をどのようにマネジメントするかがテーマになる**。市民がまちを自由に歩くときに境界を感じない状態が良い。デザインや運営，事業者の協力関係において，その課題を超えることをめざした方が良い。

日常的にはゆっくり過ごせる，一人でも使える広場になった方がいいと思っているが，**駅前の玄関口なので情報発信の場所でもある**と思う。駅周辺だけでなく，周辺地域の情報が発信されていくことを考えると，運営組織は色々な地域の方々が関わりつつ，コアチームが色々な意見を聴きながらまとめていくような状態が良いと思う。情報発信なので最終的に人に伝わらないといけないので，メディアがいると良いだろう。例えば，ラジオ放送局が駅前広場にあるとか。情報発信の場として機能していくことも大事だろう。

一般的には整備した後に運営の話が始まる。先に運営事業者を決めて，設計や運営を考えていく進め方は画期的だと思う。運営者が運営を開始するまでに時間があるので，運営者と一緒に社会実験を行いながら運営のトライアルをやり続けると，運営を開始する時には素晴らしいチームになっていると思う。

●清水座長

お話を聞いていると思いだしたことがある。ばら祭りという大きなイベントが開催されている。ばら祭りの時は非常に多くの人が回遊している。社会実験と捉えることもできるだろう。青年会議所からばら祭りのことを少しお聞かせいただきたい。

●福山青年会議所

ばら祭りは戦後復興の象徴であるばらの展示会から始まったお祭り。１９６８年に初めて開催され，１９７１年から福山青年会議所が実行委員長を輩出し，現在に至っている。青年会議所として深く関わっている。コロナ禍においてもなんとか歩みを止めずに WEB 開催をするなどしてきた。昨年から現地で開催することができた。多くの方々の笑顔が咲き誇るお祭り。他市から訪れた方々にも喜ばれている。来年からの方向性については議論をしているところ。駅前再生というキーワードもある。備後瀬戸内を知っていただく良いチャンスですし，ばら祭りを通して，人の流れを考え直していきたいと考えている。
多くの若者が進学や就職で市外に出ていかれるが，福山に戻ってきた時に福山の素晴らしさに気づいてもらえるようにしたい。青年会議所も議論に加えていただき，未来のこどもたちのために，より良いまちを残していきたいと考えている。ばら祭りという手法を最大限活用して，まちの未来のために頑張っていきたい。

●清水座長

社会実験だと見立てれればいいと思う。2 年後には世界バラ会議がある。前哨戦として，次回のばら祭りをどのように開催するか。**駅前の再生からふくまちエリアの再生，更に南側へ拡大していくことが，ばら祭りを通して実現できると良い**だろう。今，ふくやまのばらを育てている。元気に育っている。2 度花が咲いた。最近のばらは，ばら祭り時だけでなく，何度でも咲く。ばらはもっと日常化できると感じた。是非，みなさんで**四季咲きのばらを普及していってはどうか**と思う。

●ひろぎんエリアデザイン株式会社

遺構について。福山城の中に駅があるという意識をしたうえで，遺構を生かすためにも全面的な広場化をめざした方が良いという意見は正にその通りだと思う。遺構の活用によって生まれる段差については，西村委員のデザインのイメージを聴いて安心したが，遺構を生かす規模が気になっている。さりげなくという意見もあったと思うが，あまりにもさりげないと迫力が無くなるし，逆に規模が大きすぎると催しなどのにぎわいに影響が生まれるだろう。周辺の建物などを含めた景観との調和の問題もある。デザインについは専門家の意見も必要になるだろう。道路をつくると遺構の活用が制限されるという説明もあったことから，全面広場化に向けて進むと思うが，**ビジュアルを示してもらえれば，そこから更に議論が進んでいく**だろう。

●清水座長

確かに次の段階ではビジュアルが必要になるだろう。来年の２月に協議会を開催する予定。事務局で検討してもらいたい。

●三谷繭子

駅前広場が子ども達にとっての原風景となる場所になってもらいたいと思っている。小さな子どもがいる家庭にとって，中央図書館まで歩いて行くのはちょっと遠い。交流広場で遊んだり，友達と合ったりできれば，小さいときから交流広場に親しむことができて，思い出になっていくと思う。福山のまちづくりの中で，子どもや女性の声をどのように聴いていくのか。ステークホルダーだけの議論になることを懸念している。まちづくりに意識を向けていない人達も日常の利用者になる。そういう方たちにどのようにアプローチしていくのか，お考えがあればお伺いしたい。

●建設局参事

２０２０年度～２０２２年度にアンケート調査を実施した。２０２０年度は男女別・年代別に無作為抽出した４，０００人を対象とした。２０２１年度～２０２２年度については，Web アンケート及びアンケート用紙での調査を実施。市の公式 LINE を利用したり，図書館や各支所に配置することで周知を図った。回答者数は２０２１年度が５，４２４人，２０２２年度が５，５６８人であり，双方，女性の回答率は６～７割という状況だった。

●三谷繭子

関心が高いことがよく分かる。テキストのアンケート調査だけでなく，**具体的な利用方法のあり方については，対話でコミュニケーションも大事になるだろう。リアルで自由に意見を言える場も設けて頂きたい**。女性に限らず必要なことだと思う。

●清水座長

その通りだと思う。大賛成。全体的に男女比率が地方都市によくあるバランス感覚のように感じる。色々なことが同じ傾向があると思う。子どもの世話があるため，子育て世代の人たちがこのような場に出てくることは大変なこと。シンポジウムなどを開催する時には託児所機能を用意しながら開催するなども考えられる。女性の意見は非常に大事。男性の方が発言機会が多い。女性は地方都市の場合少ない。バランスをかいてしまう。大事な意見を聴き洩らしていることが多々あるように思う。時間が来たので，意見交換はここまでとする。

以上